

市民活動をFMラジオで発信！！ 『つなげよう！市民のチカラ！』

○第9回：2016年1月24日（日）

○ゲスト：豊田小学校父母と教師の会
小野 政道さん



「豊田小学校父母と教師の会」の小野さん

○放送内容

「豊田小学校父母と教師の会」では冬期間、通学路の安全確保のため除排雪を行っています。県や市の除排雪が行われるまでの間、地域のリサイクル活動等で使う軽トラック等を動員し、地域住民自らがピンポイントで危険箇所の除排雪を行う活動についてお話いただきました。

□ 「やろう！」という思いからのスタート

城東、福村、豊田、堀越地区は古く細い県道でつながり、なかなか歩道の除雪までは手が行き届きにくい場所です。豊田地区では、H24年の大雪で児童と車の接触事故がありました。この時、14年程前にあったこの県道での小学生の死亡事故が思い起こされ、「これは何とかしないとイケない」とPTAが立ち上がりました。

学校のペンキ塗りや校庭の整地など、自分たちでできる活動をしている豊田小学校の「やろう会（おやじの会）」が中心になりPTAに呼びかけ、集まったメンバーで通学路の除排雪活動を始めました。

□ 心強い仲間

小野さんは「生徒400人のPTAは300人ほどですが、通学路の除排雪活動の協力者を募集したところ、十数名集まりました。中には、ローダーやダンプを出してくれる方や、普段からボランティア活動をされていて何か手助けしたいという方、重機の整備をしていた方もいて、重機が故障したときはすぐに修理してくれました。たった十数名ですが、とても心強く、大きな数に思えるんですよ」とお話しされていました。

また、除排雪を実施する際にも、「活動に参加してくれたお父さんやお母さんがケガをすることのないよう安全には最大の注意を払い、重機の誘導にほとんどの人をつけます」と、地域の安全とそれを守る仲間を大切に思う小野さんの思いが伝わってきました。

□ 「地域」が見えて、「顔」が見える

話題は地域の現状の話に。近年は住民同士がコミュニケーションをとる機会が減り、同じ町会内においても、隣に誰が住んでいるのかわからないことがよくあります。

「活動をしていると、地域が見えてきますよね。こういうことはやり続けることが一番大事だと思っています。今年、3年目になりますが、年々一人ひとりの動きがよくなり、除雪する距離も伸びてきています」と語る小野さん。

「メンバーがお互いに、アイコンタクトで次は何をすればいいのか、誰がどう動くのか考えられるようになって、動きがなめらかになってきています。そうすると、除雪だけではなく、学校のいろいろな活動でもチームワークが反映されるようになり、地域の『顔』が見えてきます」とお話しされていました。

□ 自分たちの手で、地域の安全を守る

小野さんは「地域をよく知る住民である自分たちでやるからこそ、『こうだったらいいのに』という地域の抱える問題にすぐに対応することができます。雪をどこに片付けたらいいかをわかっている人たちだから、やりやすいんですよ」と、この活動の強みを話します。

豊田小学校父母と教師の会では、自分たちの手で地域の安全を守る意識や活動を他の地域にも広めていけるよう、“顔が見える”地域の人同士のつながりを大切にしながら、チームワークのとれた地域を目指してこれからも活動を続けていきます。